

経営比較分析表（令和元年度決算）

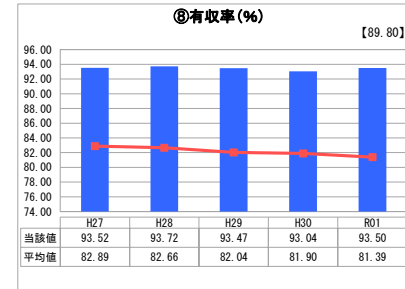
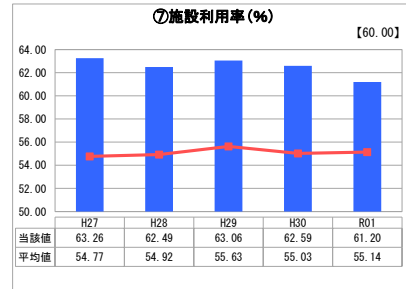
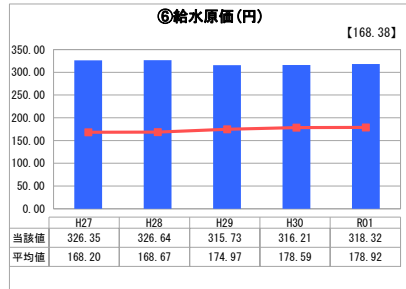
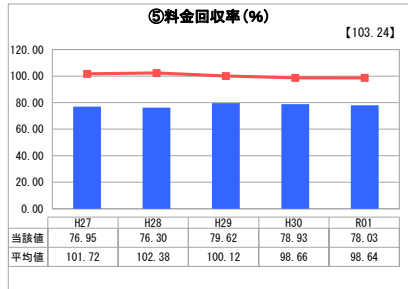
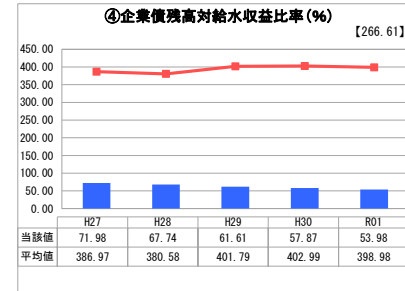
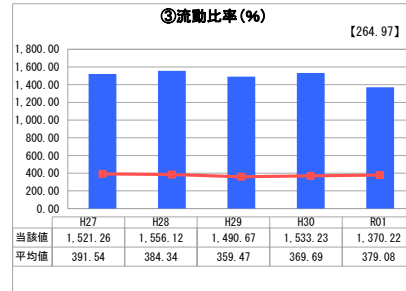
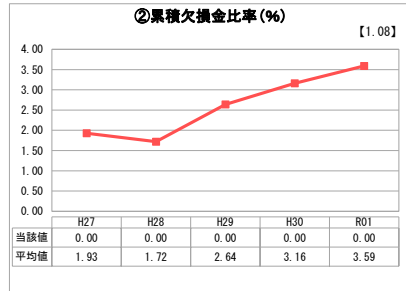
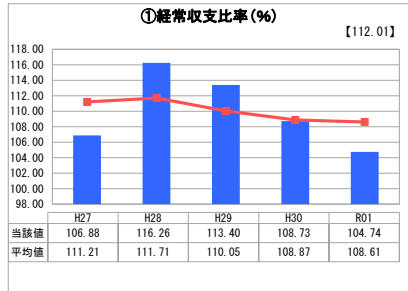
千葉県 印西市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A6 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) | |
| - | 90.49 | 17.40 | 3,960 | |

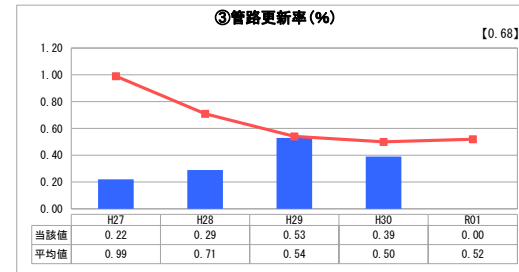
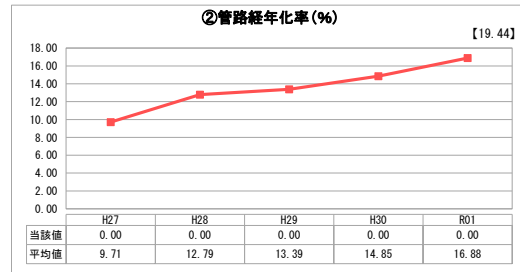
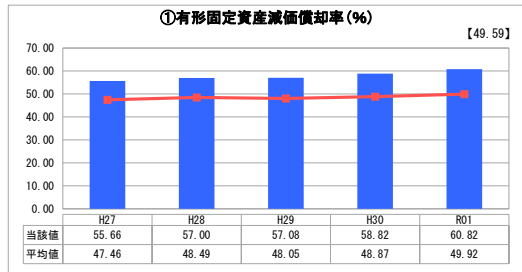
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 103,513 | 123.79 | 836.20 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 17,694 | 11.17 | 1,584.06 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値（当該値） |
| — | 類似団体平均値（平均値） |
| 【 | 令和元年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

印西市水道事業は、印旛広域水道からの受水の割合が高く、高額なため、受水費の経営に与える影響が非常に大きくなっており、給水原価が高くなっている。

一方、印西市内には、当市営水道の他に県営水道、長門川水道企業団の2事業者があり、水道料金の差が大きくなりやすいような料金単価としているため、供給単価は給水原価を大きく下回り、料金回収率が低い。

これを埋めるため、市、県から高料金対策の補助金を受け、経常収支比率は100%付近を保っている。

企業債残高対給水収益比率は、新たな企業債の借入がなく、また償還も進んでいることから、類似団体と比較し、低い数値で推移している。

2. 老朽化の状況について

水道事業としては、供用開始が昭和57年と比較的に後発であるため、全体的には老朽化は深刻ではない。なお、有形固定資産減価償却率が平成26年度から数値が大きく増加したのは、公営企業会計制度の見直しがあり、みなし償却制度が廃止されたため、受贈財産の減価償却が行われたことによるもの。

一部の地区の有収率が低下していたため、随時の漏水調査、漏水修繕に加え、平成28年度から3箇年かけて布設替えを計画し、施工しているところである。

全体総括

印西市内には、当市営水道の他に2事業者があり、水道料金の差が大きくなりやすいような料金単価としているため、類似団体と比較して料金回収率が低い。

また、水道の大口需要者が、水道と井水を併用している状況が続く限り、給水収益の改善は難しいので、今後とも経営の効率化に努める必要がある。

現在は、管路の更新需要は高くないが、今後の更新については実状に合った計画を作り進めていきたい。